

雨ニモマケズ

宮沢 賢治

雨にも負けず

風にも負けず

雪にも夏の暑さにも負けぬ

丈夫な体を持ち

欲はなく

決していからず

いつも静かに笑っている

一日に玄米四合と

味噌と少しの野菜を食べ

あらゆることを

自分を勘定に入れずに

よく見聞きしわかり

そして忘れず

野原の松の林の陰の

小さなかやぶきの小屋にいて

東に病気の子供あれば

行って看病してやり

西に疲れた母あれば

行つてその稲の束を負い

南に死にそうな人あれば

行つて怖がらなくてもいいと言ひ

北に喧嘩や訴訟があれば

※「稲の束を負う」 農作業を手伝う

つまらないからやめろと言い

ひで日照りのときは涙なみだを流ながし

寒さむさの夏なつはオロオロ歩あるき

みんなにでくのぼようと呼ばれ

褒ほめられもせず

苦くにもされず

そものういう者に

私わたしはなりたい